

山田としお 国政報告



安心して米作りができる 政策を実現します



農林水産委員会で、コメの生産調整問題を質疑(平成30年3月20日)

3月の農林水産委員会で、コメの生産調整問題を質疑しました。国による生産数量目標の配分が廃止される中、党も農業団体も、一定の目標を

持つて取り組むための全国農業再生推進機構(全国組織)を設置し、確実な推進を図ることとしています。しかし、農水省が、全国

大臣も規制改革 推進会議のあり方に 注文

また、現下の農政推進が規制改革推進会議に

組織の前提として「行政による生産数量配分に頼らずとも、生産者が中心となって需要に応じた生産を行う今般の米政策見直しの趣旨と矛盾しないこと」「関係法令に違反してきたことは何とも解せない。」
コメの生産・流通・販売を自由にする狙いを持ったもので、JA等が、生産者に生産調整を推進することをけん制するものとして受け止められません。「法令に違反しないこと」について、公正取引委員会は、全国組織は「独禁法に抵触することはない」との答弁であり、JAの共同販売の独禁法の適用除外についても「そうです」と明快な答えでした。

過剰時の対策の 検討を急ぐべき

振り回されていることも指摘しましたが、齋藤大臣から「自分も規制改革推進会議のあり方は直していききたい」との力強い答弁があり、画期的なことです。

EUが酪農制度を改変し、自由な流通・販売を行った後に生じた価格暴落に対処して、欧州委員会がバター・脱粉の買入を行い、需給と価格の安定を図ったことを取り上げました。食糧法には「政府は、米穀の需給の均衡を図るための生産調整の円滑な推進を行う」等の規定がありますが、それを無視し、天候等による需給緩和を放置するかのような国の姿勢を指摘し、過剰米対策について大臣に対して省内での早急な検討を求めました。これからも全力で頑張ります。

協同の力を発揮できる政策を実現します



94名の議員が加入

高齢化と人口減がすすむ中山間地を中心に、地域の農林水産業が元気をなくしている中で、競争力強化を柱とする市場原理と新自由主義的な政策が唱えられ、乱暴な提言がなされる状況にあります。

その危機感から、地域そのものを取り上げた「地域の農林水産業振興促進議員連盟」をつくり、他の議

連と連携して、党の重鎮である竹下巨先生、森山裕先生、吉田博美先生、吉川貴盛先生、宮下一郎先生らを中心に取り組むことになり、私は事務局長に就任しました。

地方が壊れれば、 都会も壊れる

3月の設立総会で、竹下会長は「田舎を支えるにはどうしたらよいか。地方が壊れれば、都会も壊れる。」

地元の農業や漁業は 限界にきている

森山顧問からは「地元の農業や漁業は、本当に限界にきていると実感している。しっかりとした政策対応をしなければならぬ」と挨拶いただき、「ご出席いただいた細田博之先生からは「今、農林水産業は多極分解してしまっている。この議連では、足を靴に合わせるのではなく、足に合う靴を皆で探していく。地域を守っている人たちが、これからも地に根を張って頑張れる政策をつくって

くべき。議連の趣旨には大賛成である」と述べていただきました。

その中で、今後の議連の政策提言として、次の項目を重点に検討することにし、私は事務局長として頑張ります。

- ①中山間地や離島等の条件不利地域対策
- ②圧倒的な農林漁業従事者の高齢化と求められる新規就農者対策
- ③農山漁村地域の活性化のための6次産業化の振興
- ④地域に基盤を置く農協・森林組合・漁協等の役割の評価と活動の活性化
- ⑤ふるさと回帰等、過疎化地域と都市化地域の交流の促進対策

山田としおのこと、もっと詳しく分かります!

山田としおホームページ <http://www.yamada-toshio.jp/>
山田としお フェイスブック [山田の日常が分かります。いいねお待ちしています。](https://www.facebook.com/yamada-toshio)
山田としお公式ブログ <http://ameblo.jp/toshio-yamada/>
山田の近況が分かります。